

初代静岡県知事

関口 隆吉

- 激動の時代に飛翔した最後のサムライ -



菊川市教育委員会

Kikugawa City Board of Education

はじめに ～現代に残る関口隆吉の業績をたどる～

関口隆吉は、天保7（1836）年に江戸本所で生まれ、幕末には徳川慶喜御謹慎所勤方、さらに身辺警衛精鋭隊頭取並および町奉行支配組頭となり、慶喜の警護役を務めました。江戸城無血開城にも立会い、市中取締役頭に就任、勝海舟や山岡鉄舟らと徳川慶喜を駿河に移すなど、幕末の戦後処理と新時代の確立のために尽力しました。

明治3（1870）年、現在の静岡県菊川市月岡に移り住み、牧之原台地の茶園開拓の大事業に着手しました。しかし、明治政府の強い要請を受け、わずか一年余りで上京します。そして三潁県（現在の福岡県）権参事、山口県令を歴任します。山口県令時代の明治9（1876）年には前原一誠らの萩の乱を鎮圧し、その後も中央政府の要職を務めました。

明治17（1884）年に第3代静岡県令に着任し、明治19（1886）年に地方官官制公布により初代静岡県知事に任命されました。しかし、明治22（1889）年、列車事故が原因で54歳の生涯を閉じました。

静岡を愛し、近代日本の発展に大きく貢献した関口隆吉。現在の静岡県の基盤は、関口が形成したものが多く存在します。本紙は、現代に残る関口の偉業の地を訪ねることで、その功績を後世に伝えることを目的とし刊行するものです。



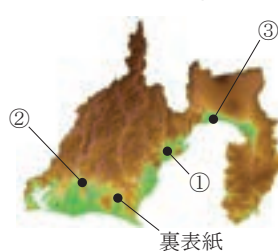
①静岡市中心部



②磐田市上神増



③富士市中河原



本紙に関連する場所（国土地理院地図 <http://mapps.gsi.go.jp/> に加筆）

人との“縁”を大事にする

関口の書簡などから交友関係をうかがうと、旧幕臣・明治政府の要人だけではなく財界人・言論界など多種多様に及んでいます。それは、彼が時局をみるに敏感で大局的な客観性・冷静な判断力をもつだけではなく、その人柄に多くの人が魅了されたことを示しています。



大橋訥庵
儒学者、攘夷論者。
安政五(1858)年に門下に入る

大橋陶庵
訥庵の養嗣子

桂 小五郎
(木戸孝允)
神道無念流の
練兵館入門当時の
塾頭

吉原守拙
長沼流兵法家。
嘉永六(1853)年に門下に入る

金子清邦
出羽国上山藩の
中老

青年期



せきぐち たかよし
関口隆吉

松岡 万
磐田・池主神社に
祀られる関口の僚友

中條景昭
金谷原開墾方頭取

大草高重
金谷原開墾方頭取並



山岡鉄舟
関口の
最大の盟友



徳川慶喜
江戸幕府
最後の将軍



勝 海舟
幕末維新の
中心人物

旧幕臣



榎本武揚
海軍中将・各
省大臣を歴任



前島 密
近代郵便制度の父



大久保一翁
幕閣の重鎮

平岩愼保
日本メソヂスト教会
第2代監督



江原素六
維新後、静岡県下
で殖産興業・教育
事業に取り組む

支援者

村田 豊
書記官

伊志田友方
書記官
関口の右腕

佐倉信武
関口の甥
静岡女学校の
初代校主



栗本鋤雲
郵便報知新聞
(のちの報知新聞)
主筆



佐野常民
日本赤十字社の
創始者

小林年保
第三十五国立銀行
(静岡銀行の前身)
第三代頭取



福地源一郎
ジャーナリスト
として言論界で
大きな影響力



安田善次郎
安田財閥の祖

石黒 務
浜松県権参事、
静岡県参事・
大書記官などを
歴任

白根専一
三陸鉄道開業の
契機となった
通信大臣

新政府



小松帯刀
徳川慶喜の駿府
移送をともに行う



伊藤博文
関口の県知事
当時の内閣総理大臣



井上 馨
実業界発展にも
力を尽くし鉄道
事業にも関与



東久世通禧
尊攘派公卿。元老院
副議長などを歴任



松方正義
大蔵大臣を歴任
日本銀行創設者



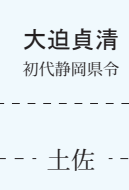
山縣有朋
明治政府の
軍政治家



山田顕義
近代日本の
法典編纂に尽力



清浦奎吾
肥後国出身。各省
大臣を歴任し、総
理大臣も務めた



大迫貞清
初代静岡県令



土方久元
大橋訥庵の門下生。
宮内大臣などを
歴任



品川弥二郎
農商務大輔などを
歴任して殖産興業
政策を推進

茶処の“基礎”を築く

明治3（1870）年、関口は遠州城東郡月岡村（現在の菊川市月岡）に居を構えました。すでに入植していた中條景昭などの旧幕臣とともに牧之原台地の開拓に取り組みました。

関口は県知事となった後も牧之原開拓と茶業の振興に、さまざまな援助を続けています。



月岡の邸宅跡 金谷開墾方頭取並に任じられた関口は、この地から牧之原の開拓に向かった



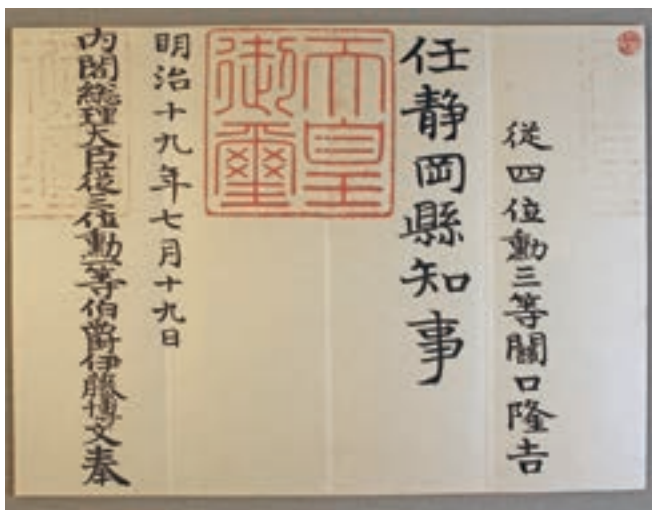
静岡倶楽部 明治19（1886）年、製茶貿易市場が横浜から静岡に移された時、関口は外商接待の殿堂としてクラブを創るよう発意している（画像提供：一般社団法人 静岡倶楽部）

牧之原大茶園 菊川・牧之原・島田市の牧之原台地にひろがる茶園は“東洋一の大茶園”と謳（うた）われる。関口は感謝の気持ちを込めて土地ごとに農家の名前を付け、現在でも地名として残っている



県民の“心”を和らげる

関口は明治17（1884）年に静岡県令、明治19（1886）年には静岡県知事に任じられました。死去までの5年間、稀代の行政手腕を存分に発揮し、治水事業をはじめ多くの事業を執り行うことで現在の静岡県発展へと繋げました。



静山荘跡 県令・県知事時代の邸宅。静岡浅間神社北側に位置し、近隣には徳川慶喜公屋敷跡がある



『任静岡県知事』・旧静岡県庁 知事就任後、県政安定化のため県庁舎新築を議決した（画像提供：静岡県立中央図書館）



東海道線の敷設 鉄道事業を積極的に推進した。当時の路線は菊川駅－金谷駅間のトンネル（左）に残されている



沼川石水門 富士山麓浮島沼周辺の「逆潮」被害を防ぐための石水門。静岡県で初めてセメントを使って構築されている



社山隧道 中遠地域の水不足解消のため明治18（1885）年に用水用のトンネル工事に着手した

郷土の“未来”を託す

関口は明治 19（1886）年に明治維新後の我が国の飛躍を祈念して、欧米の制度を手本とした公開図書館を建設しようと自ら書籍・資料を収集しました。それらは現在『久能文庫』と名付けられ、その内容は国家・社会の安定・進歩に重点が置かれています。

また、人材の育成にも尽力しており、近代日本の発展に功績を残す人材を多数輩出しました。



静岡女学校開校に尽力した人達

佐倉信武（左）、江原素六（右）のほか、多くの旧幕臣や地方有力者が関係していた

佐倉信武（画像提供：学校法人 静岡英和学院）

江原素六（国立国会図書館 <http://ndl.go.jp/> より転載）



静岡県内初の女学校 明治 20（1887）年、関口は平岩愼保らとともに私立「静岡女学校」を創立（現在の静岡英和女学院）。関口の鋭い見識は女性の活躍する社会をすでに見通していた。上の画像は創立当初の校舎

（画像提供：学校法人 静岡英和学院）



建部清庵『民間備荒録』（文政 7 年版）

久能文庫には農業関係書が多く、そのうち約 7 割を救荒関係書が占めている。関口は江戸時代に発生した飢饉について、自ら史実を調べ正誤をただして『歉歳表記』を著している。また、蒐集した多くの救荒書を『救荒叢書』として全集を出版する計画もたてていた

（国立国会図書館 <http://ndl.go.jp/> より転載）

“志”を継ぐ ～子息の活躍～

- ・関口 壮吉（長男） 浜松高等工業学校（現在の静岡大学工学部）初代校長
- ・新村 出（次男）『広辞苑』の編者、京都大学名誉教授、昭和 31（1956）年に文化勲章受章
- ・関口 鯉吉（四男） 天文・気象学者、東京帝国大学教授
- ・関口 隆正（長女・操の婿養子） 漢学者、静岡女学校第 3 代校主

関口隆吉 略年譜

元号(西暦)年	年齢(歳)	出 来 事	日本の主な出来事
天保7(1836)年		江戸本所相生町で幕臣関口隆舟の次男として誕生	天保の大飢饉
嘉永元(1848)年	13	神道無念流・斎藤弥九郎の練兵館に入門	
嘉永5(1852)年	17	家督を継ぎ、御持弓与力となる	
嘉永6(1853)年	18	長沼流兵法・吉原守拙の門人となり、兵法を学ぶ	ペリー艦隊浦賀に来航
安政5(1858)年	23	大橋訥庵の門人となり、尊王攘夷思想に傾倒	日米修好通商条約
文久2(1862)年	27	御持弓与力の職を義弟の鉦次郎に譲る	寺田屋騒動、生麦事件
文久3(1863)年	28	山田宗也の娘・睦(のち改名し綾)を妻とする	八月十八日の政変
慶応3(1867)年	32	中條景昭に従い市中取締に当たる	大政奉還
慶応4(1868)年 (明治元)	33	徳川慶喜御謹慎所勘方、さらに身边警衛精鋭隊頭取並および町奉行支配組頭となる 市中取締役頭となる 勝海舟、山岡鉄舟らとともに徳川慶喜を駿河に移すなど、幕末の戦後処理と新時代確立のために尽力	戊辰戦争が起こる 五箇条の御誓文 江戸城開城
明治3(1870)年	35	遠州城東郡月岡村に居を移し、金谷開墾方頭取並となって開墾と茶園造成事業に着手	新橋－横浜間の鉄道着工
明治4(1871)年	36	明治政府に出仕、上京	廃藩置県
明治5(1872)年	37	三瀨県(今の福岡県内)の権参事となる。置賜県(今の山形県内)参事となる	新橋－横浜間の鉄道開通
明治6(1873)年	38	山形県権令となる	地租改正はじまる
明治8(1875)年	40	山口県令となる	元老院開院
明治9(1876)年	41	萩の乱を鎮圧	大阪－京都間の鉄道開業
明治14(1881)年	46	元老院議員に就任。妻綾、月岡に没す	国会開設の詔勅
明治16(1883)年	48	地方巡察使として静岡県の調査を実施	鹿鳴館開館
明治17(1884)年	49	高等法院陪席判事となる 静岡県令となる	日本初の天気予報発表
明治18(1885)年	50	遠州社山の墜道工事、富士郡沼川石水門を建設する	内閣制度創設
明治19(1886)年	51	熱海村民とはかり、梅園を作る 「久能文庫」の創設を企画する 静岡県知事となる	初めて日本標準時間に関する法令を制定
明治20(1887)年	52	静岡県庁舎新築を議決する 県内初の女子教育機関である私立「静岡女学校」を開校	東海道本線横浜－国府津間が開業
明治22(1889)年	54	憲法発布式に参列する 東海道線の列車衝突事故により重傷、破傷風のため死去	大日本帝国憲法が発布

“静岡”を想う ～県都で眠る～



臨済寺 武家の名門・今川家の菩提寺。関口の墓石は妻とともに、ここで静かにたたずんでいる



顕彰碑 明治23(1890)年、静岡浅間神社内に建立。篆額は有栖川宮熾仁親王。関口の善政は「良二千国」と称賛された

菊川での“平穏”を広げる

関口が生きた激動の54年間のなかで、菊川で過ごした時間こそが唯一、安らかな心を保つことができた時間だったのかもしれませんが。関口はここでの平安な生活を日本各地に届けたと考えたのでしょうか。それは、関口が愛した“月岡”の地で解明できるかもしれません。



菊川での功績

牧之原台地の開拓

徳川慶喜の護衛を務めた武士は、明治維新により職を失いました。生活に困った武士たちは、この地域に詳しい関口に相談。「牧之原台地を開拓し、輸出の花形であるお茶を栽培するとよい」と勧められ、開拓を始めました。

一時は3,000人にも上る武士や川越人足、地元農家とともに、関口は開拓に取り組みました。

堀之内停車場（現 JR 菊川駅）
の開業

東海道本線の敷設が始まると、各地で鉄道誘致運動が行われました。当時、50戸ほどであった堀之内村は、村民21人連名の停車場設置願を作成。県知事の関口に「報恩寺の境内地千坪を献上するので、停車場の設置をお願いします」と嘆願しました。関口は、「菊川の堤防を改修し、道路にしたい。その菊川沿いに駅を設けるのは交通の便を図るには良い話だ」など細かく教授。停車場の設置が決定しました。

堀之内停車場（現 JR 菊川駅）は、明治 22（1889）年に完成。人や物が行き交い、地域の発展の大きな原動力になりました。



「関口隆吉の碑」「関口隆吉遺徳顕彰会」が昭和 63（1988）年に建立した



洞月院 関口家の菩提寺。境内に関口の顕彰碑があり、篆額は勝 海舟、書丹は関口隆正である



関口隆吉銅像 令和2（2020）年
1月に菊川駅前に建立

た

参考文献

静岡県立中央図書館 2009『関口隆吉関係書簡集』

本紙の作成に際し、関口隆吉遺徳顕彰会から多くの協力、教示を得た。

